

原田伴彦先生を偲ぶ

村 越 末 男

(大阪市立大学教授
部落解放研究所副理事長)

新しい年がきた。例年になく雪の多い年である。原田伴彦先生が亡くなられてから、冬の寒さも一入である。全く何と云って良いのか茫然自失の有様で三ヶ月は過ぎた。

部落解放研究所を創立し、原田先生が理事長、盛田嘉徳先生が副理事長、私が事務局長となりまさに必死の思いで、研究所を運営してきた。盛田先生が亡くなられ、一本柱が折れた淋しさの中で、私が副理事長となり、原田先生を支えなければと思ひ乍ら社団法人部落解放研究所創立十五周年の記念集会を終えての、まさに祭りの直後の悲劇だったのである。周辺はもちろん、御本人も病気の事には全く気がついていなかった。先生は、『部落問題事典』の刊行に懸命であった。日本の部落問題の総括がこれによって完結し、新しい展望を示される事に心血をそそいでおられたのである。そして、項目選定の難事業を一応終えられ、執

筆者に原稿依頼寸前において逝かれたのである。

先生はその後、御自分の思いの通りの日本通史を書かれることを楽しみにしておられた。事実、出版社と十年にも余るであろうその出版計画を約束されていたのである。

倒れられて一度も意識を回復されることなく、一言も残されることなく逝かれて了った。大往生と云えば云え、まことに悲しい別れであった。一期一会の言葉どおりの人であり、恩師であった。

原田先生は戦前、日本における若き社会科学研究者であり、学生活動家であった。それ故に、日本天皇制帝国主義権力の強制によって、中国侵略の軍隊に徴されても、一兵卒のままに帰られたのである。自らの意志ではなくても、この侵略軍隊の中に機関銃兵として在った事を生涯の恥とせられ、残念がられていたのである。高潔な人格と、科学

性こそが戦後における部落問題研究と部落解放運動への御協力御指導の実践者となられ、部落解放研究所創立者となられ、理事長として在られたのである。

原田先生の死は、ひとり部落解放研究所にとってのみの痛手ではない。日本における学問と文化、基本的人権の発展をねがうすべての人々の悲しみであり、痛手である。とくに、部落解放をもとめる人々にとっての痛恨事である。

原田先生は、日本封建都市研究の第一人者であり、日本史研究の権威であった。『日本封建都市研究』（東大出版会・一九五七年）は、その金字塔である。その実証主義的研究の方法は、部落問題研究においても貫徹し、被差別部落にかかわるさまざまな迷信と偏見、そして観念的学説を、ことごとく打破し、しりぞけて、今日の被差別部落の近世初頭政治起源説を確立したのである。『被差別部落の歴史』（朝日新聞社・一九七三年）は、その結晶である。

その学才はひろく部落問題から、茶道の世界までおよんだ。しかし、たんなるアカデミズムの世界にとどまり、書齋人として閉居する人ではなかった。社団法人・部落解放研究所を故盛田嘉徳先生とともに組織され、部落解放同盟中央本部より、お二人とも松本治一郎賞を受賞（一九八〇年）されるほどに、部落解放のために貢献されたのである。

さらに先生は、大阪市立大学教授として、学内に重きをなし、そのご指導によって、日本最初の同和問題研究室を開設された。日本の文化と学問・教育が、その差別性と、権威主義のために、さけてふれることなかった部落問題と同和教育を、科学的研究の学問分野として、確立されたのである。

こんごさらに発展するであろう人権と平和の学問・思想の出発点を創られて、基礎をきずかれたのである。

しかし、こんにちすでにその偉大で、しかも家族を愛し、友人を愛し、子弟をみちびいた温顔はこの世にない。私にとって師父とよぶべき人は、浄土の世界に往かれてしまった。

世界人権宣言三十五周年記念の大阪集会が、盛大にひらかれた日、原田伴彦先生は、京都・岡崎の地でこの世の人々とわかれられたのである。

先生が逝かれて、日本のマスコミ、各団体組織は大きくこれを報じ、これを惜しみ、慟哭した。月日の過ぎ行くごとに、その悲しみの輪は拡がり、その痛みは深かまるのみである。とくに私個人にとり、部落解放研究所にとってはまさにかけがえのない人を失ってしまったのである。頼るべきものの失った淋しさは筆舌に尽し難い。二月二五日、大阪府知事、大阪市長等各界各方面の、同和問題解決を希い

平和と人権の確立を祈る人々が集り、先生の追悼集会が盛大に行われる。せめてもの慰みとすべきか。
先生の遺志をつぎ、研究と解放への献身と多くの人々の結集を努力することを靈前に誓い御冥福を祈る次第である。合掌。

一九八四年二月二二日

注記：追悼集会は『部落解放』四月号に紹介される予定である。

故原田伴彦先生の業績と略歴

一九一七年	三月	中国の奉天(現、瀋陽)で生まれる。本籍は佐賀県東松浦郡佐志村(現、唐津市佐志浜町)。幼時帰国し、桃園第二尋常小学校(現、東京都)、松本尋常小学校(現、長野県松本市)、長野県立松本中学校に学ぶ
一九三三年	四月	松本高等学校文科甲類に入学
一九三六年	三月	松本高等学校を卒業
一九三九年	四月	東京帝国大学文学部国史学科に入学
一九三九年	三月	東京帝国大学を卒業

一九四二年	四月	東京帝国大学文学部大学院に入学
一九四六年	三月	東京帝国大学文学部大学院を満期卒業。この間、恩師の中村孝也東大教授の研究助手、東京の私立女学校教師(八雲高女)、国民新聞記者(社会部、政治部)などを勤務
一九四六年	十月	『中世における都市の研究』講談社
一九五二年	十月	復員。その後、私立松本商業学校教師、信陽新聞社記者(論説委員)など勤める。この間、『日本史概説』上下巻(中教出版社)、『日本経済史』(奈良本辰也と共著、三笠書房)を刊行
一九五三年	同月	大阪市立大学経済学部専任講師
一九五三年	同月	雑誌『部落』の編集を担当(三二号~四〇号)
一九五三年	二月	『部落解放運動の位置』『部落』第四〇号
一九五三年	五月	(一九六六年二月) 部落問題研究所理事
一九五三年	六月	『生きそこねた日本史』『部落』第四三号
一九五三年	十月	『解放令に伴なう播州農民一揆』『部落』第四七号
一九五四年	十二月	『総括討論(第三回部落問題講演会)』『部落』第四九号

四月	「トンネルの中の『隠し子』」『部落』第五二号	
五月	大阪市立大学経済学部助教授、日本経済史を担当	
六月	(共同研究執筆)『未解放部落の社会構造』部落問題研究所	
八月	『鴨川小話——部落史研究の一齣として』『部落』第五五号	
十月	「中世農民の一考察」『経済学雑誌』三一巻三・四号(『日本封建都市研究』に再録)	
十一月	(共著)『生きてゐる封建制』部落問題研究所	
十一月	「封建社会の結髪様式に関する若干の考察」『部落』第六九号(『関ヶ原合戦前後』に再録)	
十一月	「近世都市と身分制度」『歴史学研究』第一八九号(『日本封建都市研究』に再録)	
一九五五年	十月	「関ヶ原合戦前後」創元社(『原田伴彦著作集』Iに再録)
四月	「青屋」『日本歴史大辞典』河出書房	
五月	「石工と脱賤民化」『部落』第七九号(『日本封建都市研究』に再録)	
八月	「近世都市と身分制度補説」『部落』第八一号(『日本封建都市研究』に再録)	
十月	「近世都市と身分制度補説」『部落』第八一号(『日本封建都市研究』に再録)	
十一月	(共著)『部落の歴史——明治以後』『未解放部落	

一九五七年	二月	『日本封建都市研究』東京大学出版会
一九五七年	三月	「随想・六月村の早春」『部落』第八六号
一九五八年	同月	(一九六九年三月) 大阪市同和問題研究室理事
一九五八年	同月	『歴史家のみた講話の主人公』三一書房
一九五九年	三月	「(書評) 深い学識のじみ出る林屋太平記——林屋辰三郎『南北朝』」『部落』第九八号
一九五九年	五月	「(座談会) 『部落』百号までの歩み」『部落』第一〇〇号
一九五九年	十一月	第一回「人権と部落問題講座」で講演「近世封建社会と部落問題」(『人権と部落問題』に収録)
一九五九年	三月	「同和問題の中心点」『大阪の同和問題』第一〇号
一九五九年	五月	「同和問題の中心点(2)」『大阪の同和問題』第一一号
一九六〇年	一月	「近世後期の都市下層民」『経済学雑誌』四〇巻五号(『日本封建制下の都市と社会』に再録)
一九六〇年	同月	大阪市立大学経済学部教授
一九六〇年	同月	『茶道太平記』淡交社
一九六〇年	同月	「同和問題の中心的課題」『大阪の同和問題』第一

一月	○号 「(書評) 井上清『部落問題の研究』」「部落」第一二〇号
六月	「封建時代賤民史寛書」「部落問題研究」第五輯(『日本封建制下の都市と社会』に再録)
六月	「近世の賤民制」「差別の拡大」「幕末維新の部落」「講座・部落(1) 部落の歴史(上)」三一書房
九月	「近世の賤民と雑芸能」「歴史における芸術と社会」(『日本封建制下の都市と社会』に再録)
十一月	「日本封建制下の都市と社会」三一書房(増補・一九八一年七月)
一九六一年	二月 「(一九六三年二月) 大阪市立大学学生部長 (部落問題) 民主主義勢力の誓」「部落」第一三四号
三月	「部落問題と行政」「部落」第一三八号
七月	「部落問題と行政」「部落」第一四〇号
九月	「部落問題と行政」「部落」第一四〇号
同年	大阪市大でおこった女子学生差別事件をきっかけに、同大学での解放教育の取組みはじまる(以後、長く同和問題委員長)

三月	大阪商科大学より経済学博士の学位を受領
一九六三年	三月 「経済成長と行政闘争」「部落」第一五九号
六月	第二回自治体職員同和問題研究会で基調講演「同和行政の回顧と展望」「閉会の辞」(一九六三・七)
九月	「同和行政のあり方」第二集に掲載、一九六三・八 「部落」第一六四号に再録)
十一月	「大阪市の同和事業はどうあるべきか」「大阪の同和問題」第六〇号
一九六四年	十一月 「部落問題の実態について」「大阪府河北同和事業促進協議会第六回総会講義集録」
一月	「(大阪府同和問題研究会) 新春放談会」「大阪の同和問題」第六四号
二月	「(一九八三年十二月) 大阪府同和对策審議会委員 同和問題の考え方について」「大阪の同和問題」第六五号
二月	「同和問題をどう考えるか」「部落」第一七五号
六月	「同和行政のあり方」「部落」第一八〇号
九月	「近世後期部落史の小考察」「経済学雑誌」五一巻
十月	「近世後期部落史の史的的研究」(上)に再録)
同年	「長崎」中央公論社

一九六五年	七月 「部落史Ⅱ(近世)」「部落」第一九〇号
十月	「答申についで」「部落」第一九四号
十二月	(共著) 『部落の歴史と解放運動(新版)』 部落問題研究所
同年	第四回自治体職員同和問題研究会で「環境改善」分科会助言
一九六六年	「日本女性史」河出書房
同年	「部落の環境と福祉」「部落」第一九八号
一月	「同和对策審議会の答申について」「大阪の同和問題」第九三号
一九六七年	一月 (一九八三年十二月) 大阪市同和对策審議会委員
五月	第一回部落解放研究全国集会で全体集会議長(一九六八・三)『解放理論の創造』第一集に「議長総括(掲載)」
九月	「同和問題」の考え方」「大阪の同和問題」第一〇五号
同年	『茶道盛衰記』角川書店
一九六八年	四月 (一九六九年三月) 大阪市立大学評議員

五月	第二回部落解放全国研究会で全体集会議長(一九六八・一〇)『解放理論の創造』第二集に「議長総括」掲載)
八月	(一九八三年十二月) 部落解放研究所創立とともに理事長
十月	「部落問題の本質と課題」「部落解放」第一号(『原田伴彦著作集』4に再録)
十一月	(編集) 『日本庶民生活史料集成』第六卷(一揆)三一書房、(校訂・解題) 禁服訟救難訴記
同年	大阪市大で解放教育の講義(社会計画論Ⅰ)がはじまり、歴史などを担当
一九六九年	「日本町人道」講談社
一月	(編集) 『因島市の部落問題』因島市、(緒言)
二月	「一九六九年を迎えて」「部落解放」第二号
四月	(一九七〇年三月) 大阪市立大学経済学部長、同大学院研究科主任
四月	「小栗美二面伯を悼む」「部落解放」第三号
六月	第一二回自治研集会で助言者
七月	「部落解放センターへの移転にあたって」「部落解放」第四号
同年	(編集) 『日本庶民生活史料集成』第八卷(見聞記)第九卷(風俗) 三一書房

一九七〇年	一月	「一九七〇年を迎えて」『部落解放』第六号(以後一九七四年九月、第五九号まで「今号のこぼれ」を四一回掲載)
	四月	(一)一九七三年六月)「部落の歴史」二九回連載(『部落解放』第七号~第四二号、『被差別部落の歴史』に再録)
	五月	第四回部落解放研究会全国集会以全体集会議長(一九七一年三月)「解放理論の創造」第四集に「議長総括」七一・三「解放理論の創造」第四集に「議長総括」掲載)
	六月	第九回自治体職員同和問題研究会の第一分科会で講演「同和行政の考え方」
	八月	第一回部落解放夏期講座で講演「部落問題の現状と解放の課題」
	十一月	第一回部落解放研究会大阪集会以記念講演「水平社五〇年の伝統と七〇年代の解放運動の課題」
	同年	都市視察のためにソ連邦、ポーランド、西欧諸国を歴訪
	同年	(編集)『日本庶民生活史料集成』第一巻(世相)三一書房
一九七一年	五月	第四回部落解放研究会全国集会以全体集会議長(編集)『日本庶民生活史料集成』第一四巻(部落)

	七月	三二書房、「序」(校訂・解題)弾左衛門由緒書、弾内記身分引上一件、乞胸頭家伝(「解題」)治穰多識「戦前・戦後の同和行政」『経済学雑誌』六五巻一号
	九月	(座談会)「解放令」公布から百年」『部落解放』第一八号
	十月	第一四回自治研集会以助言者
	十一月	第一〇回自治体職員同和問題研究会の第一分科会で講演「これまでの同和行政と今後の展望について」
	十二月	第二回部落解放研究会大阪集会以全体集会議長、「総合計画と行政問題」分科会で報告「部落解放行政のあり方」(一九七二・三)『部落解放』第二五号に掲載)
	同年	『近代数寄者太平記』淡交社、(編集)『日本庶民生活史料集成』第二二巻(世相)三一書房
一九七二年	三月	『部落の歴史』佐賀県教育委員会
	五月	第五回部落解放研究会全国集会以全体集会議長
	七月	(一)一九七五年七月)大阪市同和对策推進協議会会長
	八月	第三回部落解放夏期講座の「解放行政」分科会で講演「部落解放総合計画と行政問題」(一九七二・

	十月	一一『部落解放』第三四号に掲載)
	十月	「同和行政の沿革とその性格」『部落解放研究』第一号
	十月	「部落の解放と人権の思想」『世界』(「原田伴彦著作集」に再録)
一九七三年	二月	第三回部落解放研究会大阪集会以全体集会議長(一九七三・四)『部落解放』第四〇号に「議長総括」掲載)
	二月	「同和行政の現状についてのノート」『経済学年報』三三集
	四月	(一)一九七七年三月)大阪市立大学同和問題研究室長
	四月	「入門部落の歴史」部落解放研究所(「原田伴彦著作集」4に再録)
	五月	(共著)「三原市における部落の歴史と解放運動」『三原市における部落の実態調査』三原市
	五月	第七回部落解放研究会全国集会以全体集会議長、「解放運動史」分科会で提案(一九七四・一〇)『解放理論の創造』第七集・討論編に掲載)
	八月	第四回部落解放夏期講座の「歴史」分科会で講演「部落史入門」(一九七三・一二)『部落解放』第四九号に掲載)
	八月	『被差別部落の歴史』朝日新聞社(朝日選書・一九

	九月	七五年三月)
	九月	「都市と部落問題」『岩波講座・現代都市政策』X都市社会と人間(「原田伴彦著作集」4に再録)
	十月	第一五回自治研集会以助言者
一九七四年	一月	『石川五右衛門』時事通信社、「大阪市の歴史」(第二二巻)大阪市議会、(編集)『日本の市街古図』(東日本編一巻、西日本編二巻)鹿島研究所出版会
	二月	「同和行政の推移と課題」『部落解放』第五〇号
	八月	第四回部落解放研究会大阪集会以全体集会議長(一九七四・五)『部落解放』第五五号に「あいさつ」掲載)
	八月	第五回部落解放夏期講座の分科会で講演「部落史入門」(一九七四・一一)『部落解放』第六二号に掲載)
	九月	(一)十二月)第一期部落解放大学講座で「部落問題概論」と「同和行政史」担当
一九七五年	一月	大阪市内在外研究員として、都市問題研究のために東南アジア諸国、インド、エジプト、南欧および北欧諸国、ブラジル、アルゼンチン、ペルー、メキシコ、アメリカ合衆国を歴訪
	一月	『部落の歴史の問題点』大谷大学
	一月	「貧窮から生まれた大衆芸能——盛田嘉徳『中世賤民と雑芸能の研究』」『朝日ジャーナル』No.八二九

一月	「(部落解放文学賞評論部門選評) 砂中から疵だらけのダイアモンドを」『部落解放』第六四号
四月	「(鼎談)」『復刻東雲新聞』第一巻付録(『部落解放』第七四号に再録)
四月	(六月) 第二期部落解放大学講座で「部落問題概論」と「同和行政史」担当
四月	「(座談会) 言論・表現の自由と部落差別」『東京部落解放研究』第四号
五月	「行政レベルから見た同和対策」『正論』第一〇号
八月	第六回部落解放夏期講座の分科会で講演「部落解放総合計画と財政問題」(一九七五・一〇)『部落解放』第七六号に掲載
九月	「(座談会) 『東雲新聞』と中江兆民」『部落解放』第七四号
九月	「(鼎談) 『東雲新聞』をめぐる」『復刻東雲新聞』第二巻付録
九月	「(随想) 近況報告・人の輝で仕事を」『現代の眼』第一八九号
十月	(十二月) 第三期部落解放大学講座で「部落問題概論」と「同和行政史」担当
十月	第一六回自治研集会で助言者、「解放行政と自治体労働者の任務」『月刊自治研』第一九二号
同年	『日本の町並み』(上・下巻) 毎日新聞社、(編

一九七六年	集) 『日本都市生活史料集成』(全一〇巻) 学習研究社
二月	第五回部落解放研究大阪集会以全体集会議長
二月	「(評論部門選評) 日本人の意識構造にせまる視点」『部落解放』第八二号
三月	「(鼎談) 『東雲新聞』発刊前後の政治状況と中江兆民」『復刻東雲新聞』第三巻付録
三月	「自治体労働者と部落解放闘争」『月刊自治研』第二〇三号
七月	「(鼎談) 自由民権運動をめぐる」『復刻東雲新聞』第四巻付録
七月	第一回東日本夏期講座で講演「解放行政のあゆみと今後の課題」
七月	「同和問題とはどういふことか」尼崎市
八月	第一回西日本夏期講座で講演「同和行政をどう見るか」(一九七六・一二) 第一回西日本夏期講座講演集』に掲載
十月	「部落史研究の問題点」(座談会) 被差別部落の歴史の起原」『現代の理論』第一五三号
十月	「行政と部落問題」広島部落解放研究所
十一月	「將軍と上等兵―松本さんの思い出」『部落解放』第九三号

十一月	「戦後の部落解放運動」『部落問題概説』部落解放研究所
同年	『改革と維新』講談社、(編集) 『兵器名物図彙』文彩社
一九七七年	第一〇回部落解放研究全国集会の第一分科会「『特別措置法』具体化の問題点を行政財政面から明らかにしよう」で助言者
一月	(三月) 第四期部落解放大学講座で「同和行政史」担当
二月	「(評論部門選評) 現代の差別構造を見ぬき課題を示す作業を」『部落解放』第九八号
三月	「久世結婚差別事件をめぐる」『同和問題研究』第一号
三月	「明治二〇年前後の部落」『復刻東雲新聞』別巻
四月	「(座談会) 戦後部落解放運動の理論」『部落解放』第一〇〇号
五月	「(座談会) 政府は措置法の抜本的改革をして延長せよ」『部落解放』第一〇二号
五月	第一一回部落解放研究全国集会の第四分科会「『特別措置法』強化延長の闘いの方向と問題点」で助言者

六月	「幕藩社会と身分制」(座談会) 近世被差別部落の歴史と差別の構造」『歴史公論』第一九号
七月	第二回東日本夏期講座で講演「『措置法』の問題点と強化延長の方向」
十月	第一七回自治研集会で助言者、「自治体労働者による部落解放闘争のさらに強力な前進をちとろう」『月刊自治研』第二二七号
同年	『紀州往還見取図』東京美術、(編集) 『京都府議会史』(総説編) 京都府議会
一九七八年	(三月) 第五期部落解放大学講座で「同和行政史」担当
三月	「明治前期の畿内部落の状況」『同和問題研究』第二号
三月	「(評論部門選評) 限界点を一歩踏みこえた質を」『部落解放』第一一五号
三月	「関東中心の賤民史研究について」『東京部落解放研究』第一二・一三合併号(近世関東の被差別部落)に再録
六月	「被差別部落の歴史」『東京部落解放研究』第一四号
七月	(一九八一年五月) 「宗教と部落問題」を三五回連載(『南御堂』第一九二号〜第二二六号) 『部落

七月	「解放」第一四二、一五一、一七三号及び『宗教と部落問題』に再録)
九月	第一二回部落解放研究全国集会の第五分科会「特別措置法」強化延長闘争の現状と課題」で助言者
九月	「部落問題とは」「部落の歴史」「近世封建社会と部落の形成」「部落問題要説」部落解放研究所
十一月	「関東中心の賤民研究について」「近世関東の被差別部落」明石書店
十二月	「融和行財政の沿革」(座談会) 近代被差別部落と天皇制」『歴史公論』第三六号
一九七九年	第六回部落解放研究大阪集会以全体集会議長
三月	「人権問題を考える(2)——部落問題をどう考えるか」『経済人』第三七八号
三月	『部落問題と宗教』大谷大学
三月	「(評論部門選評) 独自の主張をはっきり出そう」『部落解放』第一三二号
四月	「被差別部落文書」『日本古書学講座』一一(近代編Ⅲ) 雄山閣
六月	「近世後期部落史の一考察」『近世部落の史的研究所』(上) 部落解放研究所
十一月	第一八回自治研究会で助言者、「特別措置法下の同和行政とその課題」『月刊自治研』第二四二号

十二月	「一部落の近世史的全貌を明らかにした稀有な例——ある被差別部落の歴史」『朝日ジャーナル』No. 一〇八七
十二月	「宗教と部落問題(上)」『部落解放』第一四二号
同年	『反逆の日本史』時事通信社、『町人茶道史』筑摩書房
一九八〇年	「宗教界は前進したか」(各界の意見) 『部落解放』第一四三号
二月	「二十七日付毎日新聞(夕刊)に「誰かやらねば——松本治一郎賞を受賞する原田伴彦大阪市大教授」掲載
二月	「(評論部門選評) 創造的な文学理論をここから生み出そう」『部落解放』第一四六号
三月	「被差別部落文書」『日本古書学講座』八(近世編Ⅲ) 雄山閣
三月	部落解放同盟第三五回全国大会で、第二回松本治一郎賞受賞
三月	大阪市立大学停年退職、大阪市立大学名誉教授
四月	松本治一郎受賞記念祝賀会
六月	「(座談会) 中世の賤民とその周辺」『歴史公論』第五五号

六月	「近世部落と芸能」『しこく』第三号
六月	「宗教と部落問題(中)」『部落解放』第一五一号
八月	第一二回部落解放夏期講座の分科会で講演「戦後同和行政史」(一九八〇・一一) 『部落解放』第一五八号に掲載)
九月	第一四回部落解放研究全国集会以全体集会議長
九月	「弾左衛門身分引上げ一件」『近代被差別部落史研究』明石書店
十二月	国際人権シンポジウムで「部落差別の実態と課題」
十二月	「日本における差別と人権」を報告(一九八一・一二) 『部落解放』第一六一号に掲載、前者は『原田伴彦著作集』4に再録)
十二月	(編集) 『日本庶民生活史料集成』第二四卷(部落二) 三一書房、[序] [解題・校訂] 乞食頭丁助天保凶年秋田南部日記、穰多の一大族制、民事慣例類集(抄)
同年	『京の人、大阪の人』朝日新聞社、(編集) 『図説日本文化の歴史』第七卷(安土桃山時代) 小学館、
一九八一年	『図説日本の古典』第二卷(能狂言) 集英社、
一月	『大阪古地図物語』毎日新聞社
一月	「『特別措置法』強化・改正について」(書評) 埼玉県教育委員会『鈴木家文書解説』「『部落解

二月	「(座談会) 近世被差別部落に関する法令をめぐって」『近世被差別部落関係法令集』明石書店
四月	「部落の歴史と解放運動」『人権と部落解放運動』(共編) 『東北・北越被差別部落史研究』明石書店、「近世東北地方の被差別部落」(座談会) 東北・北越地域の被差別部落史研究の問題点」
四月	『原田伴彦著作集』第三卷(茶道文化史) 思文閣出版
四月	「(座談会) 近世被差別部落に関する法令をめぐって」『近世被差別部落関係法令集』明石書店
四月	「部落の歴史と解放運動」『人権と部落解放運動』(共編) 『東北・北越被差別部落史研究』明石書店、「近世東北地方の被差別部落」(座談会) 東北・北越地域の被差別部落史研究の問題点」
四月	『原田伴彦著作集』第二卷(日本女性史) 思文閣出版
四月	「(座談会) 近世被差別部落に関する法令をめぐって」『近世被差別部落関係法令集』明石書店
三月	「(対談) 近代部落史の研究をめぐって」『明石』第二号
二月	「(評論部門選評) 運動の経験をまとめよう」『部落解放』第一六一号
二月	「(対談) 近代部落史の研究をめぐって」『明石』第二号
二月	「(座談会) 近世被差別部落に関する法令をめぐって」『近世被差別部落関係法令集』明石書店
二月	『原田伴彦著作集』第一卷(戦国社会史) 思文閣出版
二月	「(評論部門選評) 運動の経験をまとめよう」『部落解放』第一六一号
二月	「(対談) 近代部落史の研究をめぐって」『明石』第二号
四月	「インド仏教徒とアフアーマティブ・アクション」『月刊社会党』第二九七号
四月	『原田伴彦著作集』第二卷(日本女性史) 思文閣出版
四月	「(座談会) 近世被差別部落に関する法令をめぐって」『近世被差別部落関係法令集』明石書店
六月	「部落の歴史と解放運動」『人権と部落解放運動』(共編) 『東北・北越被差別部落史研究』明石書店、「近世東北地方の被差別部落」(座談会) 東北・北越地域の被差別部落史研究の問題点」
六月	『原田伴彦著作集』第三卷(茶道文化史) 思文閣出版
七月	「部落問題と国家独占資本主義」『部落解放同盟中央理論委員会報告』(増補版・一九八一年十月)
八月	第六回西日本夏期講座で講演「オールロマンス事件
八月	「部落問題と国家独占資本主義」『部落解放同盟中央理論委員会報告』(増補版・一九八一年十月)
八月	第六回西日本夏期講座で講演「オールロマンス事件

三月	「三〇年と同和行政」(一九八一・一〇)『第六回西日本夏期講座講演集』に掲載
八月	「第二回部落解放夏期講座で全体講演」『部落解放理論の創造に向けて』(一九八一・一二)『部落解放』第一七四号に掲載
九月	『原田伴彦著作集』第四卷(部落問題論) 思文閣出版
十月	「第五回部落解放研究全国集会以全体集会議長 第一九回自治研全国集会以助言者」『特別措置法下一〇数年のとりくみを再点検し、法の総合的根本的改正をかちとろう』『月刊自治研』第二六五号
十一月	「日本宗教と部落問題」『伝統と現代』第七三三号
十一月	『原田伴彦著作集』第五卷(近代社会史) 思文閣出版
十二月	「宗教と部落問題(下)」『部落解放』第一七三三号
同年	フランス、スイス、タイ、ネパールの諸国を訪問(編集)『日本歴史展望』第八卷(江戸幕府) 旺文社
一九八二年	「原田伴彦著作集」第六卷(人物史夜話) 思文閣出版
一月	「(座談会) 転機に立つ『同和』行政」『部落解放』第一七七号
二月	「(評論部門選評) 幅広い作品を期待する」『部落解放』第一七七号

三月	「解放」第一七八号
五月	『原田伴彦著作集』第七卷(社会と文化) 思文閣出版
五月	(六月) 第一〇期部落解放大学講座で記念講演「宗教と部落問題」
六月	『原田伴彦著作集』別巻(近世都市騒擾史) 思文閣出版
七月	「部落解放運動の『花神』として」(座談会) 故盛田嘉徳先生をしのんで」『故盛田嘉徳先生をしのぶ』
七月	「仏教と部落問題」『大法輪』第四九卷七号
八月	「部落問題の現状とその考え方について」『国語科通信』第五〇号
八月	「第三回部落解放夏期講座の分科会で講演」『部落解放理論の課題』(一九八二・一一)『部落解放』第一九〇号に掲載
九月	「第一六回部落解放研究全国集会以の第六分科会」新法成立と『基本法』制定」で助言者
九月	(一九八三年八月) (編集)『融和時報』(全六卷) 三一書房
十月	「宗教と部落問題」 難波別院
十一月	「第二回東京部落解放講座で講演」『宗教と部落問題』(一九八三年十二月) 大阪人権歴史資料館副理事長
十二月	『大阪市会史』(第二五卷) 大阪市議会、『近代日
同年	

一九八三年	「(評論部門選評) 問題は新しいが熟れていなかった」『部落解放』第一九四号
二月	「憲法の補完を—人権侵害の規制について」『八〇年代の日本国憲法—私はこう考える』(岩波ブックレット№一六)
四月	「近世都市と被差別部落」『講座日本の封建都市』(第一卷) 文一総合出版、『年表日本歴史』(第四卷) 筑摩書房
五月	「(第二卷) 文一総合出版」『部落解放研究』第三四号再録
五月	(七月) 第一期部落解放大学講座で記念講演「朝日善之助氏をしのぶ」『故朝日善之助・部落解放同盟葬』
六月	「近世都市と被差別部落」『部落解放研究』第三四号
六月	「部落問題をどう考えるか」『部落解放』第二〇〇号
七月	「第一四回部落解放夏期講座で特別報告」『部落解放研究所一五年のあゆみと課題』(一九八三・一二)『部落解放』第二〇六号に掲載
八月	「部落問題をどう考えるか」(座談会) 差別を生
九月	

一九八四年	「み出す心と社会」『角川地名大辞典・特集人権問題について』
十月	「第一七回部落解放研究全国集会議長 部落解放研究所創立一五周年記念集会以功労者表彰」『部落解放研究所一五年のあゆみ』(座談会) 研究所創立一五周年をふりかえって」『部落解放研究所一五年のあゆみ』
十一月	(編集)『編年差別史料集成』第三卷(中世編I) 三一書房(発刊にあたって)
十二月	「(書評) 生瀬克己『孤獨』と『放置』の精神史」『福祉労働』第二二号
十二月	「世界人権宣言三五周年に当って」『大阪人権歴史資料館報』第四号
十二月	逝去
同年	『江戸時代の歴史』三一書房『道中記の旅』芸艸堂
一月	「部落解放研究所一五年の歩み」『部落解放』第二〇七号
一月	(座談会) 部落解放理論の新たな創造にむけて」『解放新聞』№一一五四〜一一五七
二月	「(評論部門選評) 『部落解放』第二二〇号